

2008年2月25日 日本テレビ 定例記者会見

<発表>

久保伸太郎社長：私どものグループ会社が経営する、日テレの番組関連グッズショップ「日テレ屋」が、3月8日（土）、東京駅の地下街に店開きをいたしますのでお知らせします。東京駅八重洲口の地下街が、大きくリニューアルされているのはご存じかと思いますが、この度出店する場所は、JR東海の管轄エリアで、他局ではすでにお店を出しているところもあり、私どもが出すことで、NHKを含めてキー局6局のお店が揃うということです。ここでしか手に入らないグッズも販売します。

それからもう1つは、私どものグループ会社で、インターネット関連のビジネスを展開しておりますフォアキャスト・コミュニケーションズが、100%子会社の東京アートクロスを設立、4月から現代アートのネットビジネスを展開します。欧米では既にこうしたビジネスがネット上で行われているとのことですが、日本にはまだ全くないそうです。最近現代アートへの関心はかなり高まっていて、それなりの市場規模ができてきたということで、ベンチャーではありますが、育てていきたいと思っています。

1. 2008年の抱負と課題

記者：今年最初の会見になりますので、新年度に向けての抱負と課題からお願いします。

細川知正会長：去年から、3つの方針ということで、「視聴率のトップ奪回」、「グループの一体化」、「信頼性の確立」に取り組んでいますが、これがある意味で今年の抱負でもあり、課題でもあります。これを着実に実行していくことだと思います。その結果として、新しい年度は開局55年、そしていわゆる総合優勝を実現する年と理解しています。

現実的には、あらゆる場面で少しずつ改善していくということが行われれば、結果としてその目標に達成すると考えていますし、今のところ着実に手応えを感じています。昨年の末でしたか、今年はどういう年でしたと聞かれて、「我慢の年だった」という言い方をした覚えがあるのですが、今年はその我慢の結果としての実りが少しずつ出てくる年かなと感じて、期待しています。

久保社長：具体的な成果としては、かねてから社内外に示してきた方向に着実に改善・改革の成果が表れつつあると判断していますので、それをさらに固めていくことだと思えます。地上波の番組に関して言えば、既に2006年から、段階的に大幅な番組改編を実施してきましたし、ゴールデン、プライムの時間帯の一ケタ番組の追放ということで、大幅な改編も実施しました。

視聴率も着実に改善の方向にあると思っています。重要なのは、かつての時代のトップを取り戻すだけでなく、収入増に結びつく視聴率の改善を掲げて、それも着実に成果が出てきていると思えます。

それから、私どもの会社は放送収入への依存度が高かったわけですが、それを少しでも改善して、放送外収入との事業のポートフォリオをもう少し改善しようとしてきた結果、放送外収入の比率も着実に上がってきたと言えらると思えます。

グループ会社についても、制作関係の4社を再編して今年の4月で1周年になりますが、一体化の方向に順調に歩み出しています。

執行を任されている私としては、これだけ変化が激しい時代ですから、今のスピードに決して満足しているわけではありません。もう少しスピードを上げていかなければと思っています。

今年は開局55年。新しい年度である来年の3月末までを視野に置いて、様々な55年企画に取り組みます。地上波の番組でなく、そこから派生する様々な伝送経路に日本テレビの番組を送り込んでさらに収益を得る場所を確保したいと思っています。

2. 2007年度視聴率の見通しと4月期の編成方針

記者：2007年度は残り1ヵ月、視聴率見通しと4月改編の狙いをお願いします。

久保社長：少なくとも前年度、あるいは前年と比較すればよくなっていると思えます。その数値については、室川取締役からお話しします。

室川治久取締役：年度の視聴率については、2007年4月1週から2008年2月2週までのデータでお話しします。

全日が今のところ2位、昨年と同じです。プライムも昨年3位、現在3位です。ゴールデンは昨年3位でしたが、今のところ2位、それからノンプライムは昨年2位が現在は1位という展開です。

特徴は、フジテレビと日本テレビ、2006年と2007年を比べてすべてのカテゴ

リーで差が縮まっていることです。全日では、0.9%差がありましたが、0.4%に縮まっています。ゴールデンでは、2.2%から1.6%。プライムは、2.1%から1.4%。ノンプライムは0.5%から差がなくなったという状況です。

それから、視聴率は、2007年下期から大きく改善傾向が見られ、2008年に入り、さらに加速して何週かで四冠王を取っています。特に、ゴールデンの平均視聴率は、昨年11.8%が12.8%と、1%視聴率が上がっています。さらには、いわゆるコアターゲットが、全日で3.8%、昨年同期から0.4%上がり、上昇率では日本テレビが一番改善されています。また、プライムも、昨年同期から0.6%上げ6.9%、こちらも上昇率ナンバーワンです。

2007年度下期の視聴率は、全日が昨年2位で今2位です。プライムは昨年4位でした。これが下期については2位。ゴールデンは昨年3位でしたが、これも2位ということで、非常に改善されています。

好調の原因は土日のプライムの番組が絶好調であることと、木曜、金曜日のプライムの番組も底上げが進み、顕著に数字を作りあげているということです。

それから、いわゆるBCタイムのベルト番組が非常に好調です。「ズームイン!!SUPER」は下期の平均視聴率が11.3%、相変わらず同時間帯のトップを独走しており、それに続く「スッキリ!!」が7.1%、昨年同期より1.6%上がりますし、コアターゲットでも改善されて1.1%上昇、「ラジかるッ」も5.6%で、昨年同期より1.8%もアップ、コアターゲットも1%アップということで、朝の帯番組が強くなり、全日視聴率の改善につながっています。それから「おもいっきりイイ!!テレビ」、これも視聴者層を少し若い層に拡大したことが、功を奏し、1月21日の週では週平均6.8%と順調に伸びつつあると言えます。

また、ニュース番組の「NEWS ZERO」これもM2、F2に好感を持たれていて、ここへ来て平均8%を超えてきています。

4月の改編は、段階的にいろいろ構造改革をしてきたゴールデン、プライムタイム及び全ゾーンの補強の最終章と思っています。プライムタイムの弱点は、週前半にあるので、月・火・水を改編します。まず1つは、月曜日21時、「今夜はシャンパリーノ」に代わって、「人生が変わる1分間の深いイイ話」、当社のエースディレクターを投入して、フジテレビの最強ゾーンに挑戦します。「世界まる見え!テレビ特捜部」、「人生が変わる1分間の深いイイ話」、そして「オジサンズ11」というラインナップです。火曜日21時は、「週刊オリラジ経済白書」に代わって音楽バラエティ「The M」。これで「おネエ★MANS」、「踊る!さんま御殿!!」、この「The M」、そしてその後にティーン層に幅広い人気あるドラマのゾーンという流れを作ります。

水曜日は、「1億人の大質問!笑ってコラえて!」の後、20時には「日本史

サスペンス劇場」、期末・期首でこれまで何回か放送し、好評を得てきた特番をレギュラー化します。題名どおり、歴史を情報番組風にアレンジした番組です。こうした新番組を投入し、週前半の若干弱いところを強くする戦略です。

それから全日の強化のため、平日のベルト番組も改編します。「おもいっきりイイ!!テレビ」の後の13時から、「情報ライブ ミヤネ屋」、これは読売テレビの制作で、既に系列のネット局のほとんどが放送していますが、日本テレビでは、これを約1時間放送し、その後、「アナ☆パラ」という新情報番組をスタートさせます。先日の東京マラソンで頑張ってくれた女性アナウンサーが中心となって、バラエティや担当している情報番組の特集枠を再度取り上げたり、事件が発生すれば、それにも対応し、なおかつエンターテインメント情報も含んで、2時間にわたり幅広く展開する新情報番組です。

ドラマは、このところ好調が続いています。水曜ドラマは、上戸彩さんの「ホカベン」という新人弁護士の話です。この水曜日の枠では、女性の生き方をテーマにしてみましたので、今回も新人弁護士の姿をどう描いていくか、楽しみにしてください。土曜のドラマは、子どもから大人までが楽しめる強カソフ、久々に仲間由紀恵さんの「ごくせん」が再登場します。

最後に映画ですが、こちらも順調に進んでいます。現在「L change the World」という、「デスノート」から派生したスピンオフ映画が公開中で、興行収入がまもなく20億、観客動員数が150万人と順調に推移しています。また、「陰日向に咲く」など日本テレビの映画はどれも当たっています。この後、3月22日には、ベストセラー作家伊坂幸太郎さん原作で、金城武さん主演の「Sweet Rain 死神の精度」が公開されます。

2008年も多くの作品を用意しています。特に今年一番の目玉は、7月公開予定の「崖の上のポニョ」。「ハウルの動く城」から3年半、待望の宮崎駿監督の最新作を予定しています。

記者：映画は、2008年度も9本に出資し、幹事作品が5本ということですが、2007年度よりどのくらい増えているのか、映画に対する期待感を。

久保社長：幹事作品はほぼ同数です。新年度はジブリ作品の「崖の上のポニョ」に期待しています。それと宮崎駿監督とお友達であり、ある意味ライバルの押井守監督の「スカイ・クロラ」もラインナップに入っています。

私どもとしては、地上波の放送と映画をどうやって連動させていくかをこれ

からも引き続き考えていきたい。「デスノート」が非常に成功した例でした。あの形が何回もできるとは思っていませんが、それでも地上波放送よりもはるかにリスクな映画に、ただどんどん手を伸ばしていくという考え方ではなく、たえず地上波とどう結びつけられるか、テレビ局ならではの形を追求したい。劇場公開する映画だけを念頭に置いてやっていくことでは必ずしもありません。

また、良質な映画にも引き続き出資していきたいと思います。既に公開した作品「めがね」がベルリン映画祭でマンフレート・ザルツゲバー賞を受賞しました。あらゆるニーズに対応できると思いますか、幅広い観客動員・特定の年齢層、収入がかなり見込める作品・特定顧客向け、しかも自己満足に浸るというだけでなく、賞をいただいたり、外部の方からも評価していただける。そういう意味では幅広い非常によいラインナップになってきていると思います。

3. 今期のプロ野球中継とジャイアンツへの期待

記者：今年の巨人戦について、新しい試みなどをお聞かせ下さい。

久保社長：解説者は、昨年と同じ顔ぶれですが、北京五輪日本代表チームの監督を務める星野仙一さんと山本浩二さんの代表コンビや、江川卓さんと掛布雅之さんのライバル対決解説など、演出上の工夫をするつもりで、いろいろなアイデアを出して検討しています。

記者：試合数は1月に発表されましたが、去年のリーグ優勝を受けて、地上波での試合数を増やす考えはなかったのですか。

久保社長：私どもが放送権を購入するジャイアンツ主催ゲームは、72試合中62試合です。62試合のうち41試合を地上波で、19試合をBS日テレで放送、未決定が2試合です。10月に予定されている4試合のカードの日程が未定で、2試合を地上波、2試合をBSで放送する予定にしていますが、シーズンの最後まで優勝の行方がもつれこんだ場面等も想定して、場合によっては地上波でと考えているためです。したがって、地上波での放送は、最大で43試合となります。尚、CS放送の日テレG+では、巨人軍主催ゲーム72試合の全試合を放送します。

記者：巨人戦のネット配信などで、今年の方針は？

久保社長：巨人戦のネット配信については、拡充の方向で今現場レベルでいろ

いろな話し合いをし、いくつかのアイデアも出ています。去年ご覧いただいた方はお気づきになったかと思うのですが、ジャイアンツのホームページ、読売新聞、日本テレビ、あるいは共同事業で始めたジャイアンツストリームなど、複数の入り口があります。今期はファンの方々の使い勝手がよりよくなるような工夫を、ジャイアンツ、読売新聞、日本テレビの担当者間で相談しているところです。

それからネット配信の配信先についても拡充の方向です。

もう1つ、試合が終わってから何分後というような配信状況もどのようにしたらいいか今話し合っています。

全部できればすべてもちろんいいのですけれども、すべてのアイデアが後ろに後退するアイデアではなくて、何とかネット配信を拡充していこうという方向で話し合いをしています。

それから、これはちょっとナイターだけだという形でお話をするとう誤解されてしまうのですが、放送法の改正で4月からワンセグ放送について非サイマル放送、独立した放送番組が可能になります。これを活用して4月からサイマル放送でもワンセグの部分は、例えば野球中継について言えばSBO、ストライク、ボール、アウトのカウントの文字を大きくするとか、映し出されるインニングの表示を大きくしてご覧いただきやすくするとか、様々な工夫をしていきます。さらに、これは多分5月に入ってからで、決まり次第またお知らせしたいと思いますが、非サイマル放送でもナイターをどういうふうにするのかということを検討中です。これもできるだけ早い期間にお知らせできればと思っています。

4. 北京オリンピックに向けての取り組み

記者：続いて、北京オリンピックの取り組みについてお願いします。

久保社長：かなり以前から私は2008年の北京オリンピックは、時差が1時間しかないこと、オリンピックに対して視聴者の皆さま、スポーツファンの方は大変関心が高いということで、相当盛り上がるのではないかと申し上げてきました。開局55年ということも含めて万全の体制で臨みたいと思います。

例えば、メーカーと協力して、オリンピック限定で技術的に画期的な取り組みをするつもりです。詳細が固まりましたら改めてお知らせいたします。

5. 東京マラソンの総括とデジタル展開について

記者：それでは先日行われました東京マラソンについての総括をお願いします。

久保社長：東京マラソンは、フジテレビと隔年で放送しており、衣替えしてからは、はじめての中継でした。基本的な取り組みの姿勢としては、いわゆるエリートランナーとでもいんでしょうか、マラソンの競技選手が走る東京マラソンと、3万人以上の皆さんが競技選手の何倍も時間をかけて走る市民マラソンとを、どのように放送していくのか検討を重ね、競技の部分と市民マラソンの部分をきちんとわけて取り組むことにしました。

第一部では、北京オリンピックの代表選手選考を兼ねたレースをきちんとお伝えできたと思っています。そして第二部では、市民ランナーが参加するマラソンをどのように見せるか工夫したつもりです。ニューヨークマラソン、ロンドンマラソンといった世界5大市民マラソンに伍していけるような市民マラソンに成長させるにはどうしたらいいか。国内での認知度を高めるだけでなく、世界的にも、参加したいと思ってもらえるように、東京を走るというアピールを映像で伝えるにはどうしたらいいのかをスポーツ中継、制作現場で熟考した上での放送でした。

更には、PCと携帯端末に向け、技術的に可能になった新しい試みにチャレンジしました。これが従来の市民マラソン、これまで日本テレビが放送してきたマラソン中継とは全く違う側面です。

例えば、私どものホームページで、ランナー全員のゴールの様子の動画映像をエントリー番号を入れると今でもご覧いただけます。G+ではフルマラソンについては、3万人のスタートとゴールを全て中継しましたので、その映像を利用し、ご自身の動画映像をご覧いただけるわけです。

また、レース当日は、Googleと提携してGPSを使って、注目ランナーが今どこを走っているのか、その位置が地図に提示できる、そんな取り組みもしました。さらに地図には、マラソンを走った後の打ち上げ会場を選ぶ時に助けになるよう、グルメ情報サイトと連携したお店検索のサービスや、コース上にある大会協賛企業のトヨタのお店で行っている催しの内容などを確認できるサービスも提供するなど、営業面でも様々な取り組みをしました。

この他、自分の家族や、友人が今どこを走っているのか、地デジやワンセグのデータ放送画面にエントリー番号を入れると通過タイムを提示することができるサービスを提供するなど、技術的にも大成功だったと思います。著名人、タレントのみなさま、様々な想いで挑戦した走る市民ランナー、ハンディキャップを克服したランナーの皆さま、そして日本テレビのアナウンサーなど、従

来のように映像としてそれぞれの走りを伝えるだけでない、様々な取り組みもしたという意味では非常に成果があった放送だったと評価しています。

(了)

<日本テレビの映画製作についての補足説明>

編成局映画センター長 奥田 誠治：

2007年度(2007年4月～2008年3月末)は16本、幹事作品を7本、出資映画を9本製作しました。この中には、3月公開の2本の作品、「Sweet Rain 死神の精度」とジブリ美術館配給の旧作「パンダコパンダ」も含まれます。これまで公開した14本の興行収入は、幹事作品が153億円、出資映画が62億円、トータル215億円というのが今の状況です。今年の幹事作品は、「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」、「舞妓 Haaaan!!!」、「ALWAYS 続・三丁目の夕日」、「マリと子犬の物語」、そして今公開している「L change the WorLd」、いずれも非常に成績が良く、出資映画の「陰日向に咲く」も原作の良さもあいまってヒット中ですし、夏のアニメ「それいけ!アンパンマン」も最高の数字を上げることができました。年度末までに興行収入はさらに伸ばせるものと期待しています。

2008年度は、今のところ、幹事作品が5本(※1)、出資映画が4本(※2)、トータル9本ですが、今後も増える予定です。今年の中での作品の中では、ジブリの宮崎監督の作品「崖の上のポニョ」が最大の目玉になると思います。7月公開予定で、日本テレビも全面的に力を入れ製作し、宣伝展開したいと思っています。

そしてもう1本、押井守監督「スカイ・クロラ」が8月初旬に公開になります。実は25年前、宮崎監督と親交が深い押井監督は「風の谷のナウシカ」と「うる星やつら」で激突して、互角の勝負をしていました。その2人が、再び、この夏休みにぶつかるというわけです。「ポニョ」は「ハウルの動く城」以来の3年半ぶりの宮崎監督作品ということで、世界的にも注目されています。一方の押井監督も、劇場超大作ということでは2004年の「イノセンス」以来の作品になります。「日テレスーパーアニメサマー」ということで、世界に通用する映像作家である二人の相乗効果で、夏の映画興行が盛り上がるよう大きくアピールしていきたいと思っております。配給は、「崖の上のポニョ」が東宝、「スカイ・クロラ」がワーナー・ブラザーズ映画です。

この他のラインナップでは、「20世紀少年」の3部作、原作もかなり人気が高い作品ですが、第1章を8月末、第2章を来年の初春に、それから第3章を来年秋に公開を予定しています。邦画映画としては、かつてない規模で製作をする作品です。まだキャストすべてを公表していませんが、非常に素晴らしい役者さんが出演されています。映画の完成を楽しみにいただければと思います。

※1) 幹事作品：「スカイ・クロラ」(8月初旬公開)

「20世紀少年」(8月30日公開)

「252-生存者あり」(12月6日公開予定)

「K-20 怪人二十面相・伝」(12月公開予定)

「20世紀少年(第2章)」(初春公開予定)

※2) 出資映画：「名探偵コナン」(4月19日公開)

「隠し砦の三悪人」(5月10日公開)

「それいけ!アンパンマン」(7月上旬公開)

「崖の上のポニョ」(7月公開予定)